



(公財) 山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



アホウドリ新繁殖地形成事業による聳島での人工飼育個体の産卵について

<環境省 同時発表>

平成25年12月13日(金)
(公財)山階鳥類研究所

小笠原群島^{むさしじま}聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業※において、2008年に聳島を巣立った個体1羽と、野生個体の番い^{ばんい}の間で1卵の産卵が確認されましたのでお知らせします。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金、朝日新聞社、キャノン株式会社等の支援を得て、伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原群島聳島に移送し、新しい繁殖地を形成する目的で2008(平成20)年から実施しているものです。

1. 産卵したつがい

2008(平成20)年に巣立った個体(カラーリング番号Y01、5歳、雄)と野生個体(足環なし)で、昨年産卵に至った番いと同じ個体と判断されます。

2. 産卵場所

聳島の北西部でヒナを飼育し巣立ちをしたところ。この番いは一昨年の繁殖期である2012年2月から同所に定着しており、昨年と同じ場所で産卵しました。

3. 確認の状況

NHKと山階鳥類研究所が共同で設置している監視カメラによって動画を撮影し精査したところ、11月9日の映像でこの番いの巣内に1卵があるのが確認されました。



<番いの足下に見えるのが卵。手前側が足環なし個体、奥側が Y01>



写真提供：NHK

※画像のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

この件についての連絡先

(公財) 山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山 115)

副所長 尾崎清明

事務局広報主任 平岡考

電話：04-7182-1101 (17 時以降：04-7182-1104)、

Fax:04-7182-1106

山階鳥類研究所ウェブサイト: <http://www.yamashina.or.jp/>

<参考>

○アホウドリについて

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。(なお 2011 年 1 月に北太平洋のミッドウェー環礁で、鳥島生まれのアホウドリのつがい抱卵する卵が孵化した)。
- ・非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949 年の調査で 1 度絶滅宣言が出されたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900 年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が 84～94cm。
- ・繁殖活動は 10 月～翌年 5 月。
- ・7 歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成 5 年)
- ・国の特別天然記念物

○これまでの経過

<2007 (平成 19) 年>

3 月～6 月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育試験を実施

<2008 (平成 20) 年>

2 月 19 日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ 10 羽 (雄 4 羽、雌 6 羽) を、ヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5 月 19 日～25 日 ヒナの巣立ち

5 月～9 月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた 4 羽がベーリング海へ到達。
聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<2009 (平成 21) 年>

2 月 5 日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ 15 羽 (雄 10 羽、雌 5 羽) をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5 月 11 日～25 日 ヒナの巣立ち

<2010 (平成 22) 年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄11羽、雌4羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<2011（平成23）年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄8羽、雌7羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

2008年の人工飼育個体6羽と2009年の飼育個体1羽の帰還を確認

5月12日～25日 ヒナの巣立ち

<2012（平成24）年>

2月11日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄5羽、雌9羽、不明1羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

2008年の飼育個体2羽と2009年の飼育個体4羽の帰還確認。人工飼育個体ではない4羽も確認。

5月15日～25日 ヒナ14羽の巣立ち

※2012（平成24）年5月25日までに聳島を巣立った個体6羽の帰還を確認。

この結果、2008年～2012年の5年間で、ヒナ70羽を移送し、このうち69羽を巣立たせることに成功

<2013（平成25）年>

※2013（平成25）年4月30日までに聳島を巣立った個体13羽の帰還を確認。

○ これまでの成果は保全生物学の学術雑誌Oryxに掲載されています

Deguchi et al. 2013. Translocation and hand-rearing of the short-tailed albatross *Phoebastria albatrus*: early indicators of success for species conservation and island restoration. *Oryx The International Journal of Conservation*.